

令和6年度入学者一般選抜入学試験問題

(B日程 国際経済学部)

小論文

注意事項

- 1 試験時間は、午後1時から午後2時までである。
- 2 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないこと。
- 3 この試験では、問題冊子(5ページ)、解答用紙2枚及び下書き用紙1枚を配付する。
- 4 試験開始の合図があつてから、解答用紙に受験番号を必ず記入すること(氏名の記入は不要)。解答用紙は2枚あるので、必ず2枚すべてに記入すること。
- 5 解答は、解答用紙の所定の欄に横書きで記入すること。所定の解答欄以外に記入した解答は無効である。字数の指定がある問題については数字や句読点は1字と数えること。文字数を記入する必要はない。
- 6 問題冊子及び解答用紙にページの欠落や印刷不鮮明な部分等がある場合は、手をあげて、試験監督者がそばに来てからその旨申し出ること。
- 7 原則として、試験時間中の途中退室は認めない。
ただし、具合が悪くなった場合、トイレに行きたくなった場合等は、手をあげて、試験監督者がそばに来てからその旨申し出ること。
- 8 試験終了の合図があつたら直ちに筆記用具を置くこと。
- 9 試験終了の合図があつて筆記用具を置いたら、机の上に問題冊子と下書き用紙を重ねて置き、その上に表にした解答用紙を問1及び問2の解答用紙が上になるように重ねて置くこと。
- 10 試験監督者の許可があるまで退室しないこと。

以下の文章を読み、問いに答えなさい。

訪日外国人旅行者数やその消費額は近年急速に増加してきた。それにより、日本経済における観光の存在感も高まっていた。しかしながら、2020年（令和2年）1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、観光需要は大きく減少している。特に地域経済に大きな影響が生じており、観光が地域経済にとって重要な役割を果たしてきたことが改めて示された。

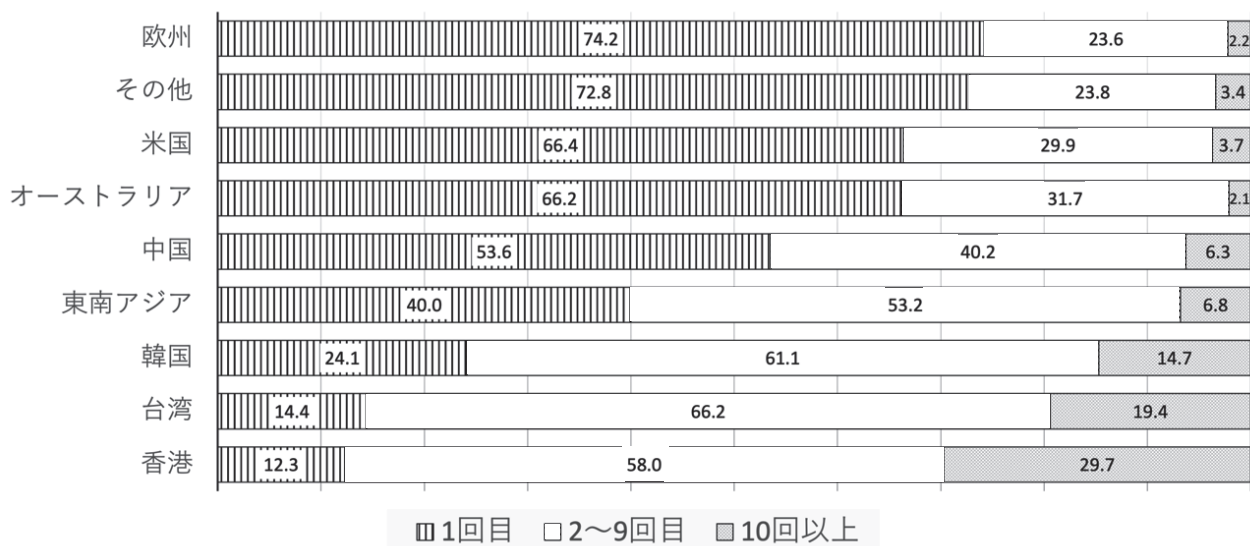
（中略）

訪日外国人旅行者による地域活性化の効果を地方部に十分に波及させるためには、地方部を訪問する傾向のある東アジアからの訪日リピーターを更に誘客し、1回の訪日で長く滞在する傾向にある欧米豪の旅行者を取り込んでいくことが重要となる。（中略）訪日外国人旅行者の増加に伴い、訪日リピーター数は年々増加している。観光・レジャー目的の訪日外国人旅行者の約6割がリピーターであり、2019年（令和元年）には1,420万人となった。

観光・レジャー目的の訪日外国人旅行者のうち、訪日リピーターの国籍・地域別構成比をみると、台湾（24.6%・約349.4万人）、韓国（23.2%・約328.9万人）、中国（22.0%・約312.5万人）、香港（12.8%・約181.1万人）の順に多く、これら東アジア4か国・地域で全体の82.6%を占めている。

国籍・地域別に訪日回数の構成比をみると^{出題者注}、香港、台湾、韓国は訪日リピーターの割合が70%以上と高く、特に香港では約3割が訪日を10回以上経験している。一方、中国はリピーターの割合が46.5%と半分以上が初来日となっている。欧米豪は、大半が初訪日である（図1）。

図1 国籍・地域別にみた訪日回数の構成比（%）



出典)『令和2年版観光白書』図表II-31を再構成。

(中略)

訪日回数別に訪問地をみると、概して、訪日1回目の旅行者は三大都市圏を中心に訪問し、リピーターほど地方部を訪れる傾向がみられるものの、国・地域によって訪問パターンに特徴がみられる。台湾と香港は訪日回数が増えるほど訪問する地域に広がりが見られ、特に台湾の訪日回数10回以上の旅行者は、全国津々浦々を訪問している。一方、中国と韓国は、台湾や香港ほど訪日回数の増加による広がりがなく、同じ地域を何度も訪れる傾向がみられる。韓国は九州地方を中心に、中国は東京都と大阪府の間のいわゆる「ゴールデンルート」を中心に再訪する傾向がある。

(中略)

リピーターの地方部への更なる誘客の可能性を探るため、東アジア4か国・地域の訪日経験者を対象に海外アンケート調査を行い、再度訪日する場合の「地方」への訪問意向を尋ねた。なお、本調査では、2018年(平成30年)の外国人延べ宿泊者数が200万人泊以上の都道府県を除いた地域を「地方」と定義した。いずれの国・地域においても訪日経験1回よりも訪日経験6回以上のリピーターが「地方」への訪問意向が高い傾向にあった。

訪問したい「地方」は、訪問経験がない地方か、訪問経験がある地方かを尋ねたところ、韓国のリピーターは、訪問経験のない地方への関心が他の3か国・地域より低かった。台湾と香港は、訪問経験のない地方への訪問意向を有する割合が高かった。特にリピーターは6～7割が訪問経験のない地方への関心が高かった。(中略)一方、中国は訪日回数が増加しても再訪する地域は限られていたが、本調査では、「訪問経験のない地方」への訪問意向が台湾や香港以上に高い結果となり、訪問している地域と訪問意向のある地域にギャップが生じていることが明らかになった。

出典) 観光庁『令和2年版観光白書』第II部「新型コロナウイルス感染症への対応と観光による再びの地方再生に向けて」p.57, pp.76-81より、一部改変して掲載。

出題者注) 本出典の基礎資料である「訪日外国人消費動向調査」によれば、訪日外国人旅行者の国籍・地域とは、国際線出国フロアで実施されたこの調査の中で台湾、香港、中国を選択肢に含む「あなたの国籍・地域を選んでください。(ひとつだけ)」という質問に対する回答内容を指し、これは訪日外国人旅行者の自己申告に任されていると思われる。問題文と問いにある「国・地域」という表現も、同じものを指している。

問1 表1には、問題文中の東アジア4か国・地域からの旅行者について、訪日回数ごとに集計した1人当たり旅行支出及び平均泊数が記載されている。表1の内容に関する次の問いに答えなさい。

表1 東アジア4か国・地域別にみた
1人当たり旅行支出（2019年 単位：万円）と平均泊数（2019年 単位：日）

	訪問回数	1人当たり 旅行支出	平均泊数
韓国	1回目	6.3	3.1
	2～9回目	6.8	3.2
	10回目以上	8.1	3.9
台湾	1回目	10.1	4.3
	2～9回目	11.3	5.2
	10回目以上	12.8	5.5
香港	1回目	13.6	5.3
	2～9回目	14.4	5.4
	10回目以上	18.0	5.9
中国	1回目	19.6	5.8
	2～9回目	22.6	6.0
	10回目以上	25.4	5.6

出典)『令和2年版観光白書』図表II-33を再構成。

- 1) 東アジア4か国・地域に共通して観察できる傾向は何か、簡潔に記述しなさい。
- 2) 韓国以外の3か国・地域と比べて韓国に特徴的な点は何か、簡潔に記述しなさい。

問2 訪日外国人旅行者の訪問先都道府県を「都市部」と「地方部」の2地域に分ける。ここで「都市部」とは、三大都市圏のうち千葉県、埼玉県、東京都、神奈川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県の8都府県を指し、「地方部」とは都市部以外の道・県を指す。ここでは、各地域の旅行者が複数の都道府県を訪問することを、訪問する地域の広がりとして表現する。

観光庁観光戦略課観光統計調査室では、訪問先の地理的な広がりを把握するために、都市部と地方部でそれぞれ「訪問率(%)」「延べ訪問率(%)」という指標を使って調査している。これらの定義について次ページに示す表2を例に説明すると、X国からの訪日回数1回目の旅行者の東京都の訪問率(%)は、 $120/150=0.8$ 、百分率表記で80.0%と定義する。X国から訪日回数1回目の旅行者の都市部への延べ訪問率(%)は8都府県の訪問率の総和で定義される。

以上の説明に基づき、表2の(A)(B)(C)(D)に入れるべき適切な数値を答えなさい。ただし、表2の表示形式に従い、訪問者数については整数で、訪問率(%)・延べ訪問率(%)については小数点第2位を四捨五入した小数点第1位までの百分率で解答すること。

表2 X国から国内都市部への訪問率(%)と延べ訪問率(%)

	訪日回数			
	1回目(訪問者数150人)		2回目以上(訪問者数90人)	
都市部	訪問者数(人)	訪問率(%)	訪問者数(人)	訪問率(%)
千葉県	24	(A)	45	50.0
埼玉県	18	12.0	30	33.3
東京都	120	80.0	(C)	(D)
神奈川県	90	60.0	60	66.7
愛知県	50	33.3	54	60.0
京都府	60	40.0	45	50.0
大阪府	105	70.0	63	70.0
兵庫県	30	20.0	45	50.0
延べ訪問率(%)	1回目	(B)	2回目以上	460.0

出題者注：出題者が作成した仮想の数値である。

問3 問2での定義から分かるように、訪問率が全体的に増えて旅行者がより多くの都道府県を訪問すると、延べ訪問率は増加する。表3は、問題文中にある4か国・地域からの訪日旅行者の訪問先について、問2で定義した「都市部」と「地方部」の延べ訪問率を訪日回数ごとに集計したものである。例えば表3の香港は、訪問回数が増えるほど地方部の延べ訪問率が増加している。これは、「訪日回数が増えるほど訪問する地域に広がりが見られ」という問題文中の記述と整合的である。それらを踏まえて、次ページの問いに答えなさい。

表3 東アジア4か国・地域から国内2地域への訪問回数別延べ訪問率(2019年 単位：%)

訪日回数	都市部			地方部		
	1回目	2～9回目	10回以上	1回目	2～9回目	10回以上
韓国	98.5	82.7	65.7	65.8	79.3	89.2
台湾	112.7	113.3	128.4	96.0	114.2	119.9
香港	139.9	124.7	129.1	73.4	95.3	112.9
中国	276.2	173.6	151.6	92.0	67.0	61.8

出典) 観光庁観光戦略課観光統計調査室「訪日外国人旅行者(観光・レジャー目的)の訪日回数と消費動向の関係について」(2019)より、出題者作成。

- 1) 表3の韓国と台湾の延べ訪問率から、訪問地域の広がりに関する両者の共通点と相違点を100字以内で記述しなさい。

- 2) 2019年時点において表1に示される旅行支出と平均泊数に関する中国の特徴、表3に示される中国人旅行者の訪問パターン、及び問題文中の中国人旅行者の訪問意向に関する記述を参照し、地方部へ中国からの訪日リピーターを誘致することのメリットと、今後彼らを誘致するに当たっての地方部の課題について、あなたの考えを述べなさい。